

# ニホンナシにおいて殺虫剤削減により問題となる害虫種の把握とその生態解明

園芸試験場

## 1 背景と目的

1990年代～2000年代前半にかけて、ニホンナシにおいて交信かく乱剤を利用した殺虫剤削減技術が確立された。鳥取県においても本技術を利用し、殺虫剤削減に取り組む地域や生産者が増加したが、防除圧低下が主要因と考えられる潜在的害虫種による被害が問題となり、その取り組みを断念する事例が増加した。また、その加害種は発生生態等の知見に乏しかったことから、その発生原因解析や対策が困難であった。そこで、殺虫剤を削減した園において、問題となり得る害虫種の把握とその生態解明に取り組んだ。

## 2 内容

- (1) ナシ害虫として52種が確認され、対策が必要と判断される約20種を抽出した。このうち、発生生態等の知見が少ない害虫種について、その生態解明に取り組んだ。
- (2) アオマツムシに対して、ふ化幼虫は6月、成虫は9～10月が防除対策の重点期であることを明らかにした。
- (3) クワゴマダラヒトリに対して、越冬後幼虫は3月下旬～5月中旬が防除対策の重点期であること、越冬密度に関与する産卵植物、産卵時期を明らかにした。
- (4) ナシホソガ（ナシカワホソガ）に対して、6月下旬～7月中旬、8月下旬～9月中旬が防除対策の重点期であることを明らかにした。
- (5) アブラゼミに対して、7月下～8月中旬が防除対策の重点期であることを明らかにした。
- (6) これらの成果は生産現場に情報提供を行った。また、同時に農薬の効果を検討し、それらは主に慣行栽培園での防除対策として活用されており生産安定に寄与している。

## 3 活用の成果と残された課題

- (1) 潜在的な害虫種は地域・年次変動がある。また、殺虫剤削減後の経過年数により発生種が変動することから、経時的なモニタリングが必要である。
- (2) 潜在的な害虫種に対する適用薬剤が少なく、試験方法が確立していない種も多いため、適用拡大に向けた検討が必要である。



クワゴマダラヒトリ



アオマツムシ



ナシホソガ（ナシカワホソガ）



アブラゼミ